

# Seibi Gakuen English Newsletter

The First Issue (December 21st, 2011)

## Contents (目次)

<b>Greetings</b> (ご挨拶)	<b>1</b>
<b>Snapshots of Our English Workshop</b> (イングリッシュ・ワークショップの報告)	<b>2</b>
<b>Message from a Graduate</b> (卒業生からのメッセージ)	<b>5</b>
<b>Column — “Christmas in England”</b> (連載コラム — 「イングランドのクリスマス」)	<b>8</b>

## Greetings

Hello, everyone. We are highly delighted to announce that the English Department has just published the first *Seibi Gakuen English Newsletter*.

The prime purpose of this newsletter is to enhance your English language learning. In order to accomplish this, we are planning to provide you with a variety of information about English language learning. We are also thinking of introducing some of our graduates who were, and still are active in learning English.

Secondly, this newsletter aims to make our department's projects widely known. For instance, one of the projects we feel most proud of doing now is the *English Workshop*, which was launched this year. Please feel the fun-filled atmosphere of previous workshops that are included in this issue.

Last but not least, we all hope that you will have a fruitful winter vacation. We also wish you and your family members a very merry Christmas!

## ご挨拶

みなさん、こんにちは。この度、英語科では *Seibi Gakuen English Newsletter* を創刊いたしました。ここに喜んでご報告いたします。

さて、このニューズレターの第 1 の目的は、みなさんの英語学習を応援することにあります。これを達成するために、みなさんには英語学習に関するさまざまな情報を提供していく予定です。また、このニューズレターを通じ、在学中、熱心に英語を学んでいた、そして今なお学んでいる卒業生も紹介していきたいと考えています。

このニューズレターの第 2 の目的は、英語科の活動について、みなさんに広く知ってもらうことです。例えば、私たちが現在、誇りを持って実施している活動の 1 つに、今年度新たに始めた *English Workshop* があります。このニューズレターでも特集されていますので、その楽しさあふれる雰囲気を味わってもらえたらと思っています。

最後になりましたが、みなさんの冬休みが実り多きものとなりますよう、英語科一同、願っています。どうぞ、よいクリスマスをお迎えください！

# Snapshots of Our English Workshop

みなさんに英語運用の機会を少しでも多く持ってもらいたいと考え、英語科では今年度、*English Workshop*を開催しました。このワークショップの趣旨は Nicholas Kerry 先生が発案した活動に英語のみを用いて参加することです。そのため、会場となった大会議室では「足を一歩踏み入れたら、英語で話す」ということをできる限り徹底するようにしました。

## 第 1 回(7 月 8 日)

6 月に参加希望者を募ったところ、中学生 38 名、高校生 41 名と、予想を超える申し込みがありました。私たちとしてはうれしい限りでしたが、グループ編成の関係で、人数を最大 30 名にまで絞り込まなければならない状況になりました。そこで、カナダ研修に参加する予定の中学 3 年生 10 名には研修用の事前学習(こちらも Kerry 先生によるワークショップです)に集中してもらうことにし、中学生の部を 28 名としました。また、高校生の部では事前にくじを引いてもらい、30 名に絞りました。このくじ引きでは最後の機会になるかもしれない 3 年生に参加権を譲ってくれた 2 年生の姿もありました。優しい心遣いに感謝しています。

### ～当日のスケジュール～

中学生の部		高校生の部	
10:00 ~	ワークショップの説明 [10 分] (Kerry 先生より)	12:50 ~	ワークショップの説明 [10 分] (Kerry 先生より)
10:10 ~	第 1 セッション [45 分]	13:00 ~	第 1 セッション [40 分]
10:55 ~	休憩 [10 分]	13:40 ~	休憩 [15 分]
11:05 ~	第 2 セッション [45 分]	13:55 ~	第 2 セッション [40 分]
11:50 ~	解散・昼食(自由参加)	14:35 ~	休憩 [15 分]
		14:50 ~	第 3 セッション [40 分]
		15:30 ~	解散

### ～活動の内容～

中学生の部		高校生の部	
Kerry グループ	英語版「クイズ \$ ミリオネア」 に挑戦しよう!	Kerry+田嶋 グループ	英語版「クイズ \$ ミリオネア」 に挑戦しよう!
稲葉 グループ	英語で「イエロー・サブマリン」 を歌おう!	飯塚 グループ	英語で「イエロー・サブマリン」 を歌おう!
		大谷+渡邊 グループ	英語で「ミスター・ビーン」の映 像を描写しよう!

### ～参加者の感想～

楽しかった。／また参加したい。／いろいろな学年がいたので、緊張感を持ってできた。少し不安だったけど、うまくできた。／楽しく勉強すると、頭に入りやすい。／よい体験になった。／先生たちも英語で話していて、びっくりした。／カナダに行ったときのことを思い出した。／英語はとても大変だなと思った。／まだまだ英語力が足りないなと思った。ただ暗記するだけでなく、自分で考えて話す力が必要だなと思った。

## 第2回(12月15日)

好評であった初回に引き続き、2学期末にも実施しました。季節柄、クリスマスを意識した内容で、会場となった大会議室は温かな雰囲気になりました。この回の参加者数は中学生 21 名、高校生 11 名と、やや少なかったのですが、その分、質・量ともに充実したワークショップにすることができたように思います。

### ～当日のスケジュール～

中学生の部		高校生の部	
9:00 ～	ワークショップの説明 [10分] (Kerry 先生より)	13:00 ～	ワークショップの説明 [10分] (Kerry 先生より)
9:10 ～	第1セッション [40分]	13:10 ～	第1セッション [40分]
9:50 ～	休憩 [20分]	13:50 ～	休憩 [20分]
10:10 ～	第2セッション [40分]	14:10 ～	第2セッション [40分]
10:50 ～	休憩 [20分]	14:50 ～	休憩 [20分]
11:10 ～	第3セッション [40分]	15:10 ～	第3セッション [40分]
11:50 ～	解散・昼食(自由参加)	15:50 ～	解散

### ～活動の内容～

中学生の部		高校生の部	
Kerry+大岡 グループ	英語でクリスマス版ビンゴを 楽しもう!	Kerry+大谷 グループ	英語でクリスマス版ビンゴを 楽しもう!
稲葉 グループ	英語で「クリスマスの12日」 を歌おう!	畑 グループ	英語で「クリスマスの12日」 を歌おう!
渡邊 グループ	英語のクリスマス・カードを作 ろう!	田嶋 グループ	英語のクリスマス・カードを作 ろう!

### ～参加者の感想～

いつもより単語がたくさん覚えられた。/3時間、あっという間だった。/クリスマスっぽくてよかった。/もっと先生と話したい。/毎回お菓子が少しずつ違って楽しい。/テストのときは考える時間があるけれど、実際は質問されたときにすぐ答えられなければいけないなと感じた。/積極的に英語で話そうと思ったり、普段話せない子とも気軽に話すことができた。/積極的な機会なので、これからも続けてほしい、いろいろな子に参加してもらいたい!



Kerry 先生の説明を聴いて、いよいよスタート。



歌のグループ。絵が歌詞の理解を助けます。



教頭先生と歌のペア練習をする中1です。



ビンゴのグループ。遊ぶ前に単語の確認！



サンタの帽子でより一層、クリスマスの雰囲気。



中学生のカード、完成！



休憩中のワンショット。お菓子を手に、いい笑顔です。



この後、参加者の投票で、ベストカード賞に。



高3にとって最後のワークショップとなりました。



高校生の部、終了！

# Message from a Graduate

在学中、とても熱心な姿勢で英語学習と向き合い、卒業後もその学びを続けている卒業生が星美学園には数多くいます。このコーナーではそのような方々を紹介し、当時の勉強方法や近況などを後輩であるみなさんにお伝えできたらと考えています。

栄えある第1回目のゲストは今年3月に卒業した61期生の渡辺明希(わたなべあき)さんです。渡辺さんは在学中から果敢にTOEIC<sup>1</sup>やTOEFL<sup>2</sup>を受験し、大学入試ではそのスコアを活用。現在は「どうしても入りたかった」という上智大学国際教養学部に通っています。

11月のある夕方、渡辺さんはこのニューズレターのために、雨の中をわざわざ星美学園まで来てくれました。「今日はスペイン語の授業があったんです」と言いながら、足を運んでくれた渡辺さん。大学で充実した日々を過ごしていることがよくわかる様子でした。



T: 田嶋(聴き手) / W: 渡辺さん(話し手)

T: 雨の中、来てくれてどうもありがとう。今日はスペイン語の授業があったの？

W: はい。英語を使ってスペイン語の授業を受けるから、大変です。

T: そうか、上智の国際教養は授業が全部英語なのよね。それは確かに大変だと思います。さて、今日来てもらったのは、明希さんが星美学園に在学中、どんなふうに英語を学んでいたのかを在校生に知ってもらいたいと思ったからなの。明希さんは中学校時代、実はあまり勉強していなかったと小耳に挟み、驚いたことがあるのだけれど、勉強に目覚めるきっかけはあったのかな？

W: 中1の頃は本当に何もしていませんでした。定期試験で30点台、40点台の科目もあつたくらい。でも、中2のときにクラブ活動を辞めてしまって…。そのとき、「その分、絶対に勉強を頑張ろう」と思ったんです。そうしたら、英語のクラスも上がり始めて、一番上のクラスに入ったときに、みんなについて行けるようにとさらに必死で勉強しました。

T: 当時はどんなことを意識して英語を学んでいたのかな？

- 
1. Test of English for International Communication のこと。日常生活からビジネスに至るまでの幅広い場面における英語コミュニケーション能力を10～990点のスコアで測定。世界約120ヶ国で実施されている。
  2. Test of English as a Foreign Language のこと。英語を母語としない人々の英語コミュニケーション能力を0～120点のスコアで測定(Internet-based Test の場合)。北米を中心に180ヶ国8,000以上の教育機関が入学や奨学金授与の判定基準として利用している。なお、星美学園も実施会場として場所を提供している。

- W:** 音読です。音読はどれだけ繰り返してもいいと思います。高3の夏休み中、TOEFLのスコアを上げるために集中して勉強していたときも、1つのパッセージ<sup>3</sup>を覚えてしまうくらい、何度も何度も音読していました。
- T:** 音読を通じて得たことって、実はリスニングやライティングの力にもつながらない？
- W:** つながります。出てきた表現や言い回しは次に聴いたり、書いたりするとき、活かれますね。
- T:** 学校の授業でも音読はあったと思うけれど、どうでしたか？
- W:** シャドウイング<sup>4</sup>の時間がよかったです。
- T:** 習熟度別のクラスとはいえ、一人ひとりの英語力はさまざまだから、本当の意味でのシャドウイングにならないこともあったと思うのだけれど…。つまり、英文の難易度によっては教科書を見て音読するのと変わらないときもあったのではないかな？
- W:** そういうときは自分の中で目標を立てていました。周りのみんなが教科書を開いたまま読んでいるときに、自分だけ閉じるというのはあまり好きではなくて…。だから、たとえ教科書を開いていても、見ないでちゃんとシャドウイングができるかどうかを自分で確かめたりしていました。
- T:** 明希さん、偉いわね。英語に限らず、成績が伸びてくると、「学校の授業は…」みたいなことを言うケースもないわけではないのだけれど、正直なところ、そう感じることはなかった？
- W:** 私はなかったです。そう感じる人はよその世界を覗いた方がいいかな。世の中には自分よりずっとよくできる人がいるってことを私は塾を通じて知っていたから、まだ力が足りない自分は学校の勉強もきちんとしようと思っていました。
- T:** その他にしていたことはあるかな？
- W:** VIDES にカンボジアの方がいて、その方が書いた英語の日記を VIDES のホームページ用に日本語に訳すということをしていました。そういう活動を勧めてくださった担任の村松先生には感謝しています。それから、フィリピン研修に参加したことも、いろいろな面でとても大きな意味がありました。
- T:** 話は変わりますが、明希さんが TOEIC や TOEFL を熱心に受験し始めるきっかけは何だったのかしら？
- W:** 留学していた姉が受けていたというのがあります。その後、TOEIC や TOEFL のスコアを利用して大学入試に挑戦できるということを知り、高2の秋頃、「上智に行きたい」と思うようになってからは、定期的に受験するようになりました。
- T:** 実は今日、これまでのスコアを持って来てもらっているのよね。TOEIC の初受験は 2008 年の 9 月、明希さんが高1のときです。そのときのスコアが 390 点。その後、510 点、770 点と伸びていき、高3の9月には 860 点に到達します。TOEFL も高3の9月で 79 点。かなり勉強したでしょう？
- W:** 高3の夏休みは自分でもよくやったと思います。単語は朝のうちに勉強した方がいいらしいと聞いて、毎日6時に起き、100語ずつ覚えるなんてこともしていました。

---

3. まとまった短い文章のこと。

4. 英文を見ずに、流れてくる音声を聴きながら、そのすぐ後ろを追いかけるようにまねして声に出していく学習方法のこと。影(shadow)のように後についていくことから、シャドウイング(shadowing)と呼ばれる。

- T: そのときの頑張りが現在に活かされていると思うことはあるかな？
- W: 直接的に「これ」というのはないけれど、どこかで生きているとは思いますが。
- T: そんな努力の末に合格をつかんだ大学です。入学当初からここまで、順調でしたか？
- W: いいえ、全然。最初のうちは授業で宿題が出されても、理解できなかったし、クラスメートも帰国子女やインターナショナル・スクール出身者が多くて、授業外でもほぼ英語が使われるので、ついて行くのが本当に大変でした。でも、友だちの中には漢字が苦手で、学食で食券が買えないという子もいて…。
- T: そういうときは明希さんが手伝うの？
- W: はい。そうこうしているうちに、授業も日常生活も慣れてきました。
- T: 今、大学生活は楽しいですか？
- W: はい。英語でアカデミックなことと日常会話のようなことの両方がやりたくて、高校生の頃はずっと留学したいと思っていたけれど、今は大学でそれができているから、満足です。
- T: それはよかったですね。そんな明希さんから後輩たちに何かメッセージはありますか？
- W: 今は英語が苦手でも、「好き」という気持ちがあれば、大丈夫だと思う。私も洋楽とか英語の雑誌とかがすごく好きだったし。あと、今でもよく覚えていることがあって…。
- T: 何、何？
- W: 小さい頃、家族でアメリカに行ったことがあるんです。あるとき、現地のスーパーで母に、「トイレに行きたい」と言ったら、「Where is the bathroom?」って訊いてごらんと言われました。姉と一緒に、近くの店員さんにその通りに言ったら、わかってくれて…。「あー、通じた」というあのときの気持ちは今でも鮮明に覚えています。
- T: そういう気持ちって、本当に大切ね。今日はお忙しい中、どうもありがとう。

〈追記〉このインタビュー記事は紙面の都合により、一部を再構成して掲載しています。

～インタビューを終えて～

進路が決定するまでの間、渡辺さんには本当に辛い時期があったそうです。「ちょうど今頃だった」と言いながら、現高3のことを何度も気遣ってくれていた心優しい渡辺さんです。渡辺さんのもう1つのよいところは、「学び」に対して非常に謙虚であること。「私はこれだけのことができる」ではなく、「私にはまだこれ足りない」という心の在り方が渡辺さんの英語力を伸ばしているのではないかと感じた1日でした。

## Column – "Christmas in England"

Kerry 先生がイングランドのクリスマスについて寄稿してくださいました。12月24日の夜、イングランドの人々はどのようなことをするのでしょうか…。

Christmas is a big occasion in England. It is a time when families get together and share precious time together. I will tell you about one of my typical experiences at this magical time.

On Christmas Eve (December 24th), many people head to their local church to participate in what is called "Midnight Mass". This is a special event in which people get together with others who live in their local community to listen to Christmas carols and hear the priest deliver traditional Christmas messages. It is of course highly unusual to attend church at such an hour (11pm - 1am approximately) and to add to the uniqueness of the occasion, it is common for an assortment of candles to be used to provide light. The combination of the carols and the subdued light creates a rare, cozy atmosphere.

The main reason, of course, that "Midnight Mass" takes place deep into the night is to celebrate Jesus Christ's birth on the 25th December. The church's priest will tell of the Lord's humble beginnings in a manger in Bethlehem and of those who were there to attend it. One of my favourite stories from the bible is how the three wise kings were guided to the modest manger by a bright star in the night sky.

Perhaps you are wondering whether children also attend the mass due to its lateness... Well, many children also attend. Naturally, when they get back home it is more or less straight to bed with the anticipation of Christmas morning occupying their thoughts, or to be more specific, the anticipation of the presents they will receive on Christmas morning! However, before bedtime some children help their parents set out mince pies and a drop of brandy for Santa when he comes to deliver presents. Santa is of course very busy Christmas Eve so he naturally gets hungry and thirsty!

Then it is off to sleep, ready for the big day ahead. Merry Christmas everybody!

### Editor's Postscript

We greatly appreciate Mr. Kerry's and Ms. Watanabe's contributions to this newsletter.  
We hope to publish the next issue this coming April!